

第21回ASEAN日本社会保障ハイレベル会合

▶ ASEAN地域における長時間労働に起因する
脳卒中と虚血性疾患の現状と予防対策

2023年11月28日

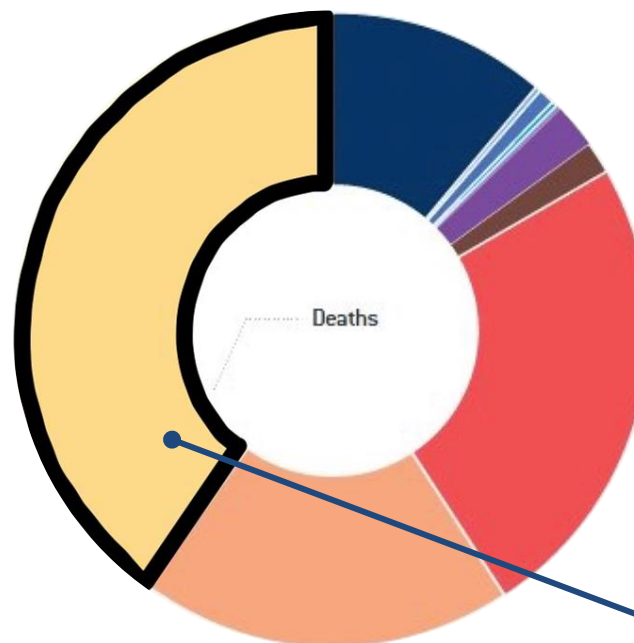
国際労働機関（ILO）駐日代表 高崎 真一

国際労働機関（ILO）と世界保健機関（WHO）は共同で、2016年に仕事関係の疾病と怪我がもたらす負荷に関する調査を実施し、調査結果を2021年に公表

- ▶ SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」と目標8「ディーセント・ワーク」を達成するために共同調査
- ▶ 過去に2000年、2010年にも実施
- ▶ 183カ国にまたがる大規模調査
- ▶ 19の労働リスク要因に基づく死亡者数等を集計*。その結果、これら19の要因によって、2016年の1年間に合計約190万人が死亡したことが判明

*19の要因のうち、長時間労働以外は既存の研究に基づく計算式が用いられた

183カ国*の労働リスク要因別、総死亡者数の割合（2016年）



【19の労働リスク要因一覧】

- 労働中のアスベストへの接触
- 労働中のヒ素への接触
- 労働中のベンゼンへの接触
- 労働中のベリリウムへの接触
- 労働中のカドミウムへの接触
- 労働中のクロムへの接触
- 労働中のディーゼルエンジン排気ガスへの接触
- 労働中のホルムアルデヒドへの接触
- 労働中のニッケルへの接触
- 労働中の多環芳香族炭化水素への接触
- 労働中のシリカへの接触
- 労働中の硫酸への接触
- 労働中のトリクロロエチレンへの接触
- 労働上の喘息原物質
- 労働上の粒子状物質、ガスおよびヒューム
- 労働上の騒音
- 労働上の負傷
- 労働上の人間工学的要因
- 長時間労働

*国連加盟国（193カ国）のうち、アンドラ、クック諸島とニウエ、サンマリノ、セントクリストファー・ネイビス、ツバル、ドミニカ、ナウル共和国、マーシャル諸島、モナコ、パラオはデータなし。

▶ 長時間労働に起因する疾病が生じさせる死亡者数

- ▶ 【長時間労働→脳卒中もしくは虚血性心疾患→死】という因果関係を想定して死亡者数を集計。
- ▶ 19個のリスク要因のうち、長時間労働(≧週55時間)によって脳卒中および虚血性心疾患で亡くなった人の数が、2016年の1年間で約74.5万人に上り、19のリスク要因のうち最もリスクの高い要因となった。
- ▶ 調査で週 55 時間以上働いた場合と週 35～40 時間(標準的労働時間)働いた場合を比較した結果、週55 時間以上働いていた場合、脳卒中を起こす確率は 35%高くなり、虚血性心疾患で死亡する確率は 17%高くなった。

*【死亡者数算出方法】

・WHO/ILO技術諮問グループからの助言に基づき、ある年における虚血性心疾患と脳卒中発症は、その年の5～15年前の期間に長時間労働に従事した結果であると仮定。また、各労働者について、時間枠内の最も高い週労働時間区分が、その人の時間区分として割り当てられる。

例) 2018年に労働者Aが脳卒中による症状で亡くなったとする。脳卒中を発症したのが2016年だとすると、これから5～15年前の2001年から2010年の間に長時間労働(≧週55時間)に1年間でも従事していた場合、その人は長時間労働による脳卒中で死亡したと想定する。

● 744,924人

長時間労働に起因する疾病が出す死者数
[95% UR: 705,519-784,329]

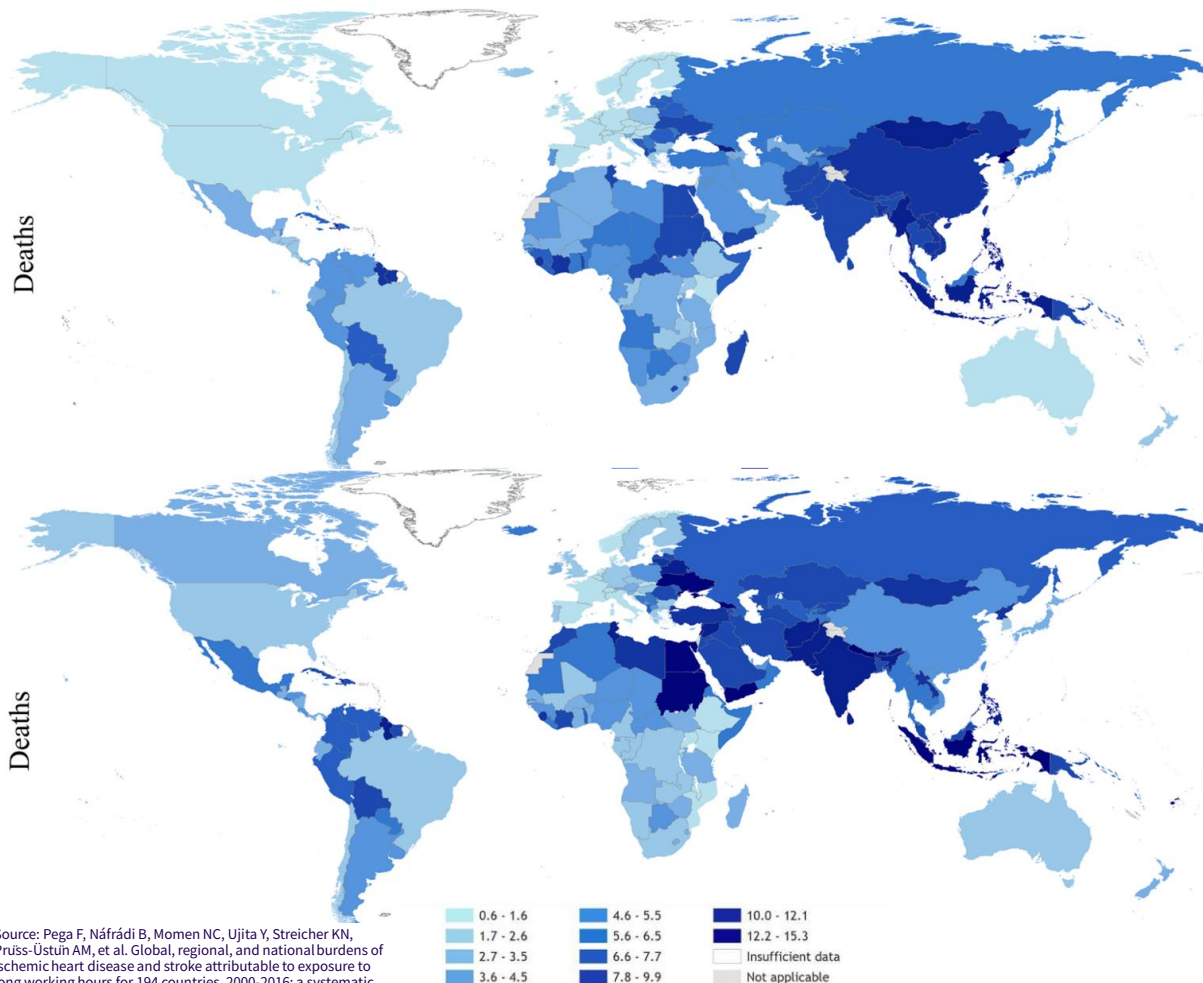
● 4億7,900万人

長時間労働に従事している世界人口
[2021年]

● 39.3%

長時間労働に起因する労働関連死が
労働関連死全体に占める割合

国別の長時間労働に起因する脳卒中と虚血性疾患による死亡者数



▶ 地域別に見ると、長時間労働による脳卒中と虚血性心疾患で亡くなった人は**南東アジア地域**(15.8万人/15.9万人)、**西太平洋地域**(約4.3万人/6.5万人)の順で多い。脳卒中で死亡した人が最も低いのは**アメリカ地域**(1.9万人)、虚血性心疾患の場合は**アフリカ地域**(1.6万人)だった。

▶ 2000年から2016年の間で、人口10万人当たりの死亡者数は、**南東アジア地域**と**西太平洋地域**の2つの地域のみで増加←→その他の地域では減少。

*ただし、この地域区分はWHOが報告、分析、管理を目的として特定した地域区分である。
ASEAN諸国のうち、
[南東アジア地域]=インドネシア、ミャンマー、ネパール、タイ、
[西太平洋地域]=ブルネイ、カンボジア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム

▶ 上図：183カ国における長時間労働(≥週55時間)に起因する脳卒中による死亡率(人口10万人当たり)[2016年]
▶ 下図：183カ国における長時間労働(≥週55時間)に起因する虚血性心疾患による死亡率(人口10万人当たり)[2016年]

▶ ilo.org

性別ごとの長時間労働に起因する病気の死亡者数

▶ 脳卒中[左図]と虚血性心疾患[右図]による死亡者数のうちおよそ3分の4は男性が占めている。

▶ 二つの疾病に起因する死亡ケースの場合、発症してから2年以内に亡くなる人もいれば、発症後十数年で亡くなる人もいる。いずれの場合も、長時間労働に従事している最中ではなく、長時間労働に従事し、それによって虚血性心疾患か脳卒中を発症し、発症してから死亡に至るということを想定しているため、70歳以上の死亡率が高くなっている。

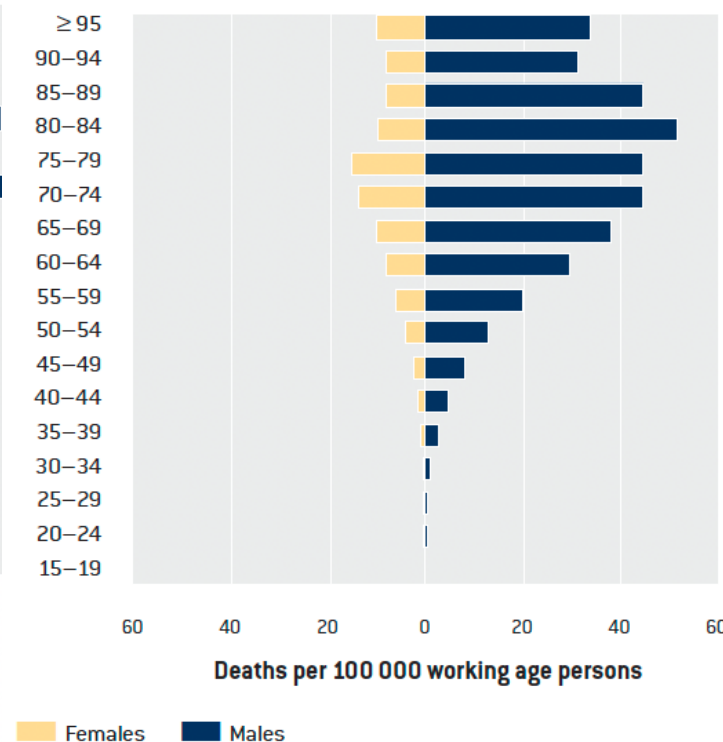
▶ 長時間労働が致命的な病気につながる理由として以下の二つが挙げられる：

- i) 過剰なストレスホルモンの放出
- ii) タバコの使用、アルコールの過剰摂取、不健康な食事生活などのストレスに対する行動反応

Age group (years)



Age group (years)



ASEAN諸国における長時間労働

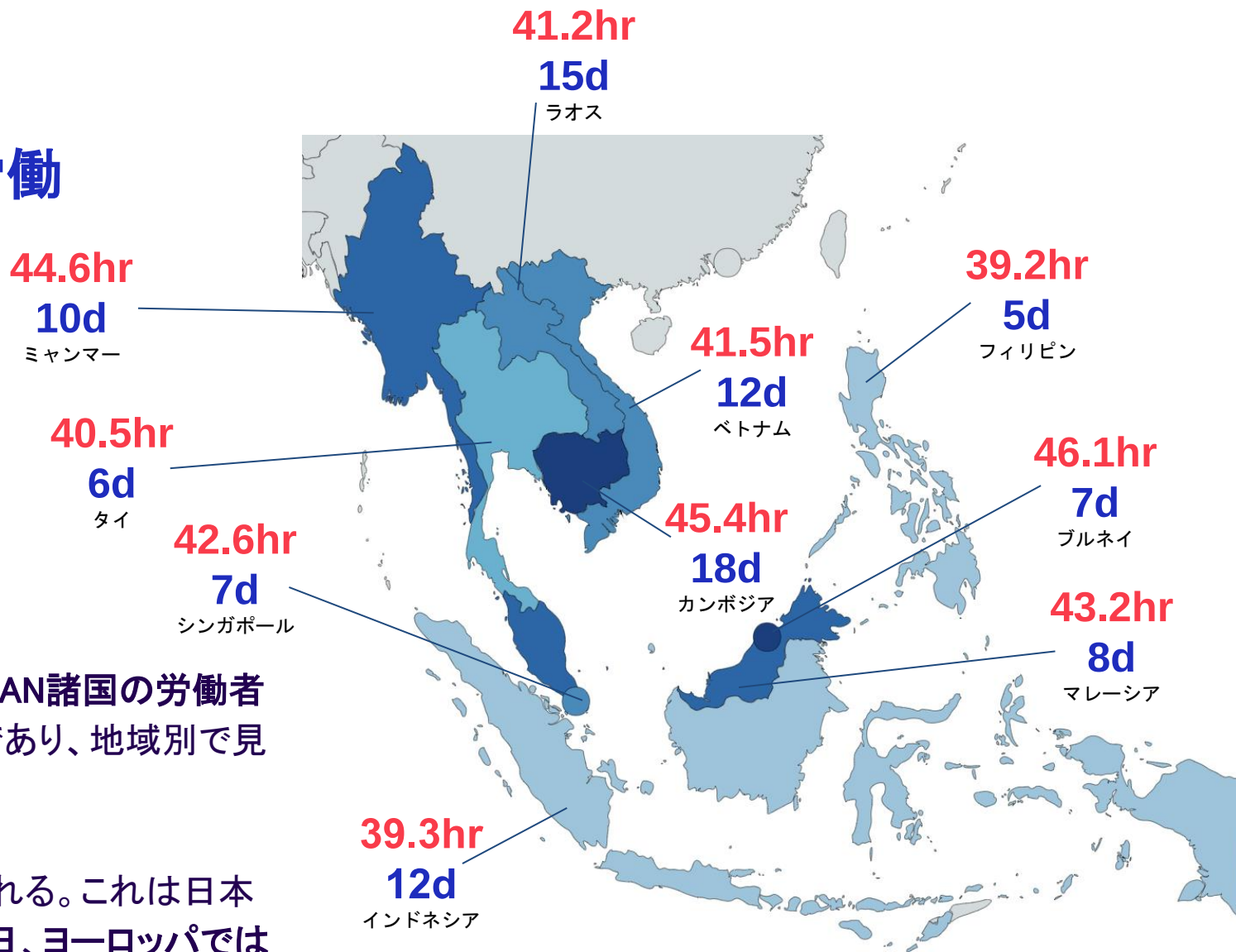
- **42.3時間**

ASEAN諸国における週平均労働時間

- **10日**

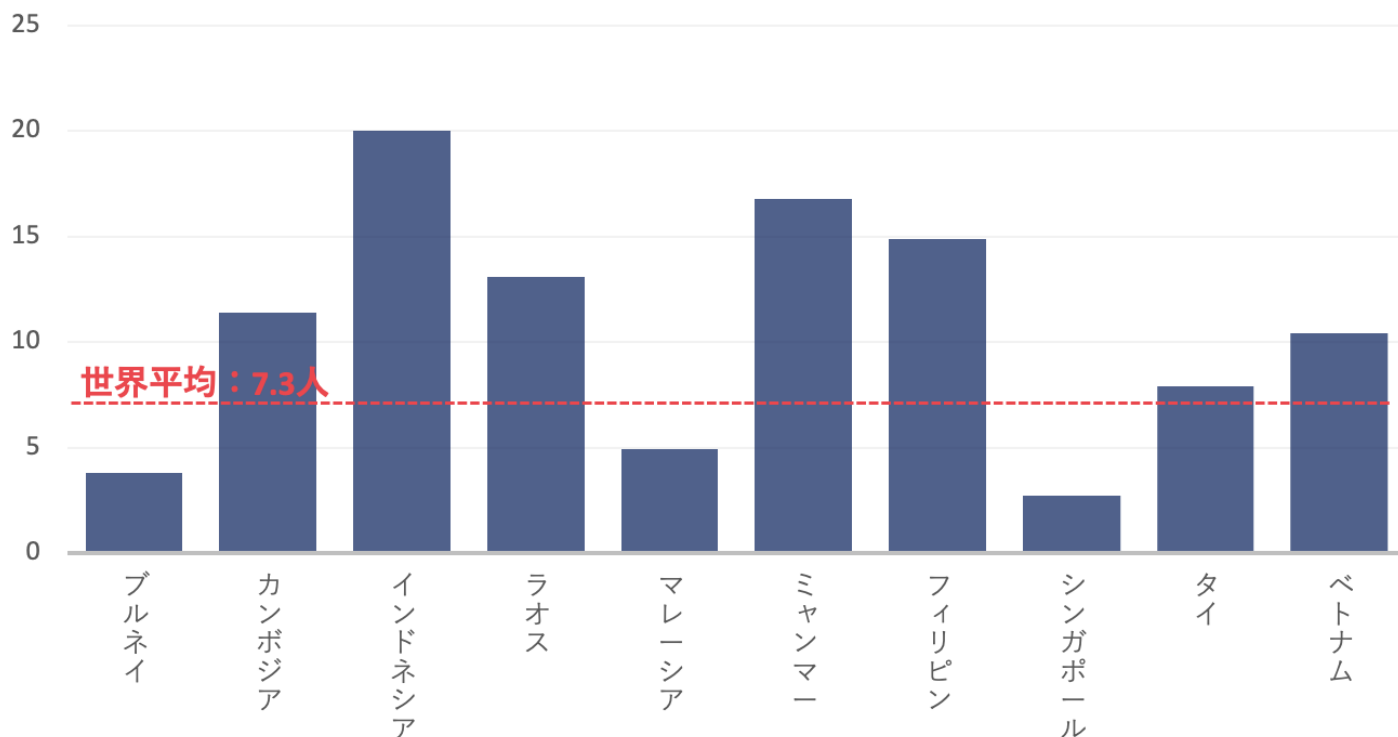
ASEAN諸国における1年間の平均有給日数

- ▶ ILOのデータベース(ILOSTAT)によると、ASEAN諸国の労働者の1週間における平均労働時間は**42.3時間**であり、地域別で見ると最も高い。
- ▶ ASEAN諸国は平均して**10日**の有給が与えられる。これは日本の有給日数と同じだが、アフリカでは平均20日、ヨーロッパでは平均22日、さらに南アメリカ地域でも平均15日の有給が与えられていることを踏まえると少ない。



ASEAN諸国における長時間労働とそれに起因する病気の死亡者数

ASEAN諸国における労働年齢人口（15歳以上）10万人当たりの長時間労働に
起因する脳卒中による死亡者数



▶ ASEAN諸国における長時間労働に起因する病気の死亡者数は112,065人。つまり、この10カ国における死亡者数は183カ国からなる全体の**15%**を占める。

▶ 人口10万人あたりの死亡者数に関しては
脳卒中：**世界平均の7.3人**を超えている国は10カ国中7カ国。これのうち、**インドネシア**は20.0人と世界平均の3倍弱の人数。

虚血性疾患：世界平均の6.3人を超えているのは4カ国。ここにおいても**インドネシア**は12.9人であり、世界平均の2倍以上の人数。

▶ 長時間労働に起因する病気の予防対策

- ▶ ILOの第1号条約[＝1919年労働時間(工業)条約]と第30号条約[＝1930年労働時間(商業・事務所)条約]、第47号条約[＝1935年40時間制条約]の批准。

※日本は上記の条約未批准…労働基準法第36条(時間外・休日労働協定)の「36 協定」によると、あらかじめ労働組合と使用者で書面による協定を締結すれば、法定労働時間を超えて労働を延長したり、休日に労働をさせることができる→これが上の条約に抵触

- ▶ 全ての労働者が産業保健サービスを受けられるようにする。定期的に健康診断を行い、その際には労働時間数だけでなく、長時間労働によって危険性が高まる心血管リスク因子(肥満、身体活動、喫煙、食事など)もチェックする。
- ▶ 特に脆弱な社会的弱者を守るために、社会的サポート体制を導入する。
- ▶ 健康が害されるほど過剰な労働時間数を働かなくても基本的な生活を送ることができるように、一定の所得を提供する。



ご清聴ありがとうございました

▶ 本発表のベースとなったレポートもご参照ください。

▶ グローバルレポート:



▶ テクニカルレポート:



▶ ILOが2023年に出版した労働時間とワークライフバランスに関する報告書をご覧ください。

▶ 世界の労働時間と
ワークライフバランス

